

ヨーク大学第三学年読解教材
AS/JP3000 6.0 Reading Comprehension
第三課「コンピューターは力なり」
Lesson 3: Computer is power

以前は「知識は力なり」だったのが、最近では「コンピューターは力なり」といってもよいほどコンピューターの役割が増してきたように思う。コンピューターに関して知っているか知らないかによって、仕事の種類、量、また交際・活動範囲がまったく違ってくるといのが現状である。画期的な理論や技術の場合たいてい同じであるが、コンピューターの場合は特にその衝撃の大きさと広さには計り知れないものがある。大学を例にとってみても、コンピューターをアカデミアにとって最大の脅威ととるか、救世主ととるか、対応の仕方に雲泥の差が見られる。コンピューター化に反対する人たちは、それが「非人間的」だととらえ、賛成する人たちは、その効用を徹底的に利用しようとする。確かにコンピューターに振り回されているきらいもないではないし、コンピューターのおかげで効率よく仕事ができるために、もっと仕事の量が増えたという点も否めない。それだけでなく、コンピューターは、インターネットに代表されるような異なった種類の仕事も作り出した。電子メールの発達で確かに情報交換と交信の量と速度が急激に増したが、一日何十というメッセージを読みそれに対応するというのはかなり時間がかかり、職場だけでなく、

自宅でもアクセス可能なために、待った無しにメッセージを開くことが常に要求される。ソフトウェアを見ても、日進月歩で飛躍的に改良が進み、複雑になり、素人にとっては、ワードプロセッシングを学ぶことだけでも大変な仕事になっている。私は、十年以上前からコンピューターを使っているが、そのころと比べて、もし自分が今からコンピューターを使い始めるとしたらどうだろうと考えると、コンピューター恐怖症にかかっている人たちをあながち責められない。十年以上の経験があつて初めて、一応現在のコンピューターがこなせるのである。こなせるといつても、コンピューターの持っている可能性の十分の一も活用していないかもしれない。しかし、ここであきらめるわけにはいかない。好むと好まざるとに関わらず、コンピューター化はどんどん進み、どこかで始めなければ、完全に取り残されてしまう。もちろん、ここに選択の余地がある。ある人はコンピューターを拒絶するだろう。しかし、二十一世紀を展望してみると、コンピューターが我々の社会の中心になっていくことは誰も否定できない現実である。特に教育の分野を考えてみると、我々はそういう社会で活躍する若い世代を作り上げていく役割をになっている。大学は常に流動する社会に対する鋭い批評家でなければならないが、それとともに、変化に対しての柔軟性も要求される。大学人がいつまでも旧態依然とした「象牙の塔」にこもって、アカデミアの現状維持を図ろうとするならば、どうして新しい時代に

適応できる若い頭脳を創造していくことができるか。

コンピューターを学ぶことには一つの大きな落とし穴があるように思う。いくらユーザー・フレンドリーになったからといって、即座に使えるようになると思うのは大間違いである。多くの大学人は、自分の分野で権威であり、学識も豊かであるために、コンピューターぐらいわけなく学べるはずだと思ってしまう。彼らは、コンピューターが他の学習と同じように、知識と経験それに創造性を要求することに注意を払わない。それで、すぐ学べないと、苛立ち、機械やソフトのせいにする。彼らは、コンピューター関係の技術屋と話すことを極度に嫌う。彼らが話すことがチンプンカンプンでまったく分からないという。自分たちが専門分野を教える時に、どれほど専門用語や概念を使っているかということには一顧だにしない。確かに、技術屋サンたちにも問題がある。彼らの下位文化は、ブルーカラーのそれと同じである。知識と実力が勝負の世界である。相手が教授であろうと何であろうと、コンピューターに無知であれば、そのように扱う。これまで象牙の塔での権威とそれに対する敬意をほしいままにしてきた教授にとって、これは耐え難いだけでなく、大きな侮辱でもある。彼らは自分の無知をさらけ出すことを極度に恐れる。私は、ここにいわゆる各学部のコンピューター担当者の役割を見る。アカデミアの下位文化

と技術屋の下位文化の異文化間コミュニケーションの橋渡しという役割である。教員でもかなりの知識を持っていれば、技術屋サンもそれなりの敬意を払ってくれるし、教員の方も自分の沽券をそれほど気にせずに質問できる。私はコンピューターを担当して三年目になるが、コンピューター化がアカデミアにとって最大の試練であると見ている。そして、これをどう乗り切るかに、大学の将来がかかっているとも思っている。

トロントにて 太田徳夫
1997年10月23日

[語彙]

力	ちから	power
以前	いぜん	before, previously
知識	ちしき	knowledge
最近	さいきん	recently
役割	やくわり	role
増す	ます	increase
思う	おもう	consider
関して	かんして	regarding
知る	しる	know
仕事	しごと	work
種類	しゅるい	type, kind
量	りょう	amount
交際(する)	こうさい(する)	association
活動(する)	かつどう(する)	activity
範囲	はんい	realm, domain

違う	ちがう	different
現状	げんじょう	current state of affairs
画期的(な)	かつきてき(な)	epoch-making
理論	りろん	theory
技術	ぎじゅつ	technology
場合	ばあい	case
同じ	おなじ	same
特に	とくに	particularly
衝撃	しょうげき	impact
広さ	ひろさ	width
計り知れない	はかりしれない	immeasurable
例	れい	example
最大(の)	さいだい(の)	largest
脅威	きょうい	threat
救世主	きゅうせいしゅ	savior
対応(する)	たいおう(する)	respond
仕方	しかた	way
雲泥の差	うんでいのさ	a world of difference
反対(する)	はんたい(する)	oppose
非人間的(な)	ひにんげんてき(な)	inhumane
賛成(する)	さんせい(する)	agree, support
効用	こうよう	effect
徹底的(に)	てっていてき(に)	thoroughly
利用(する)	りよう(する)	utilize
確か(に)	たしか(に)	surely
振り回す	ふりまわす	twist around
効率	こうりつ	efficiency
増える	ふえる	increase
点	てん	point
否めない	いなめない	cannot deny
代表(する)	だいひょう(する)	represent
異なった	ことなつた	different
作り出す	つくりだす	create

電子	でんし	electron
発達(する)	はったつ(する)	develop
情報交換	じょうほうこうかん	information exchange
交信(する)	こうしん(する)	communicate
速度	そくど	speed
急激(に)	きゅうげき(に)	suddenly
対応(する)	たいおう(する)	respond
職場	しょくば	work place
自宅	じたく	own home
可能(な)	かのう(な)	possible
待った無し(に)	まったなし(に)	no wait
開く	ひらく	open
常(に)	つね(に)	always
要求(する)	ようきゅう(する)	demand
日進月歩	にっしんげつぽ	constantly advancing
飛躍的(に)	ひやくてき(に)	rapid
改良(する)	かいらょう(する)	improve
進む	すすむ	advance
複雑(な)	ふくざつ(な)	complicated
素人	しろうと	amateur
学ぶ	まなぶ	learn
大変(な)	たいへん(な)	hard
比べる	くらべる	compare
自分	じぶん	self
以上	いじょう	above, more than
使う	つかう	use
始める	はじめる	begin
考える	かんがえる	thing
恐怖症	きょうふしょう	phobia
責める	せめる	accuse
経験(する)	けいけん(する)	experience
初めて	はじめて	not until
一応	いちおう	sufficiently

現在	げんざい	present
可能性	かのうせい	possibility
活用(する)	かつよう(する)	make good use of
好む	このむ	prefer
関わらず	かかわらず	regardless
完全(に)	かんぜん(に)	completely
取り残す	とりのこす	leave behind
選択(する)	せんたく(する)	choose
余地	よち	room
拒絶(する)	きよぜつ(する)	reject
世紀	せいき	era
展望(する)	てんぼう(する)	prospect
我々	われわれ	we
社会	しゃかい	society
中心	ちゅうしん	center
誰	だれ	who
否定(する)	ひてい(する)	deny
現実	げんじつ	reality
教育	きょういく	education
分野	ぶんや	field
活躍(する)	かつやく(する)	play an active role
若い	わかい	young
世代	せだい	generation
作り上げる	つくりあげる	create
流動(する)	りゅうどう(する)	dynamic change
対する	たいする	toward
鋭い	するどい	sharp
批評家	ひひょうか	critic
変化(する)	へんか(する)	change
柔軟性	じゅうなんせい	flexibility
旧態依然	きゅうたいいぜん	remain unchanged
象牙の塔	ぞうげのとう	ivory tower
現状維持	げんじょういじ	maintain the status quo

図る	はかる	plan
時代	じだい	times
適応(する)	てきおう(する)	adapt
頭脳	ずのう	brain
創造(する)	そうぞう(する)	create
落とし穴	おとしあな	pitfall
即座(に)	そくざ(に)	right away
大間違い	おおまちがい	big mistake
権威	けんい	authority
学識	がくしき	scholarship
豊か(な)	ゆたか(な)	rich
学習(する)	がくしゅう(する)	learn
創造性	そうぞうせい	creativity
注意(する)	ちゅうい(する)	attention
払う	はらう	pay
苛立つ	いらだつ	get irritated
機械	きかい	machine
関係	かんけい	relation
技術屋	ぎじゅつや	engineer
極度(に)	きょくど(に)	extremely
嫌う	きらう	hate
チンプンカンプン		gibberish
専門分野	せんもんぶんや	specialized field
専門用語	せんもんようご	specialized terminology
概念	がいねん	concept
一顧	いっこ	a glance
一顧だにしない		pay no attention
問題	もんだい	issue, problem
下位文化	かいぶんか	subculture
実力	じつりょく	one's ability
勝負(する)	しょうぶ(する)	fight
世界	せかい	world
相手	あいて	the other party

教授	きょうじゅ	professor
無知(な)	むち(な)	ignorant
扱う	あつかう	deal with
敬意	けい	respect
ほしいままにする		do as one pleases
耐え難い	たえがたい	unbearable
侮辱(する)	ぶじょく(する)	insult
さらけ出す		expose
恐れる	おそれる	be scared
各学部	かくがくぶ	each faculty
担当者	たんとうしゃ	person in charge
異文化間	いぶんかかん	cross-cultural
橋渡し	はしわたし	bridge (a gap)
教員	きょういん	teaching staff
沽券(にかかわる)	こけん(にかかわる)	dignity
質問(する)	しつもん(する)	question
試練	しれん	ordeal
乗り切る	のりきる	overcome
将来	しょうらい	future

© Norio Ota 2013